

1 令和6年度事業報告

(1) 公益財団法人竹田市文化振興財団としての使命

令和3年2月5日に設立した一般財団法人竹田市文化振興財団は、令和4年4月1日、大分県（知事）から公益認定書を受領することになった。一般財団法人発足1年にして、公益財団法人に移行できた意義は大きい。

竹田市総合文化ホール《グランツたけた》は平成30（2018）年10月7日に開館した。開館以来、竹田市直営方式で運営してきたが、2年半後の令和3（2021）年4月1日から一般財団法人竹田市文化振興財団による指定管理方式に変更した。運営方式は変更したものの、開館以来の管理運営方針は踏襲し、しかも同じスタッフによる運営が継続している。新型コロナ・ウイルス感染症が拡大するなかではあるが、万全な体制を取りつつ積極的な事業を展開するなど、運営実績が高く評価された証といえる。

令和6年度は公益財団法人として3年目の竹田市総合文化ホール《グランツたけた》の指定管理であった。公益財団法人としての使命と社会的責任を強く自覚し、ガバナンスよい統治・組織）、コンプライアンス（法令順守）、トランスペアレンシー（透明性）などを向上させることを決意する。そのために、竹田市民に対する説明責任を果たすために情報公開に努めてきた。

(2) 竹田総合文化ホール《グランツたけた》の指定管理事業

- ・指定管理期間：令和3年4月1日～8年3月31日 ※令和6年度は4年目。
- ・指定管理者である財団法人が行う業務

下記の4項目が規定されている（竹田市総合文化ホール設置条例第18条）。

- ① 《グランツたけた》の利用の許可に関する業務
- ② 施設等の維持管理に関する業務
- ③ 事業の企画及び実施に関する業務
- ④ その他、市長が必要と認める業務

竹田市文化振興財団は、《グランツたけた》を管理運営するにあたり、竹田市が策定した管理運営基本計画（平成28年6月）及び管理運営実施計画（平成29年6月）の基本コンセプトならびに、第2次竹田市総合計画（令和5年3月）を踏まえ、竹田市民の多彩な文化芸術活動・人々の交流・生涯学習を通じて竹田市の魅力を高め、内外に情報発信し、まちを活性化させる「まちづくりの拠点」として地域社会の健全な発展に貢献することをめざして業務にあたった。

ア 施設の利用・維持管理に関する業務

① 施設の適正な利用及び利用者への便宜供与に関する業務

施設の利用に関しては、公平・平等かつ適正に行い、施設等の利用料金は、竹田市総合文化ホール設置条例（第19条）の規定に従い、条例が定める使用料の額の範囲内において、市長の承認を受けて適正な金額を定め、支払いについては利用者の便宜を図る。あわせて積極的な広報活動により、施設の利用促進に努めた。

コロナの5類移行に伴って、社会活動制限がなくなり施設利用はコロナ前の状況に戻りつつあり、来館者数は73,591人（3月31日現在）となった。

◆利用者の声の反映・自己評価

利用者に対して聞き取り調査やアンケート調査の実施などにより、利用者からの意見や要望の聴取に努め、施設の管理運営の改善に反映させる。

また竹田市文化振興財団の自己評価として、上記利用者アンケート調査の結果や自主事業の来場者アンケート、市民による事業モニター調査を実施し、管理運営や事業計画の改善に努めた。それぞれの事業においてABC判定をし、事業の振り返りをしながら本年度の事業に生かすように努めることができた。

◆施設の利用促進

6年度のホール稼働率は、廉太郎ホール・キナーレの平均で67%（廉太郎ホール41%、キナーレ93%）であり、月によるばらつきがあるものの年平均目標指標65%を達成（全国平均56%）した。特に、5年度は大分市のiichiko総合文化センターのホールが改修で休館中であったことから、市外においてグランツたけは音響のよいホールであることを告知し積極的に誘致したことから、コンサート等の誘致に成功した事例もあり、稼働率アップに貢献したしたが、6年度はそのような特殊事例がない中ではあったが、健闘した方だと考えている。

◆施設利用者の便宜供与

ホール等の利用に不慣れな利用者のためにスタッフが全面的にサポートする。また、休館日の臨時開館や利用時間の延長等にも柔軟な対応に努めてきた。

② 施設の維持管理に関する業務

施設の維持管理に関しては、設備・備品管理業務、警備・清掃業務等を専門の業者に委託し、クオリティとコストの両面でレベルの高い施設管理を行う。とくに委託金額の設定については、指定管理期間5年という長期期間のメリットを生かし、原則として5年契約を締結することで安価なコストが実現できた。また、5年間一定した契約額となったことにより今後の物価上昇等に影響されることなく、長期的な経営見通しを立てることができている。

今後はより質の高い維持管理が達成できるように専門業者との品質管理協議を徹底するように努めていく。

◆建築物及び建築設備の維持管理

的確な保守点検により、施設、設備の正常な性能を維持するとともに、竹田市との協力体制のなかで、所要の修繕を行ってきた。懸案であったホールの雨漏りについても、原因調査を継続して行い6年度中には修繕を完了した。随時、案件が生じれば対応してきたが、今後も点検等を徹底していきたい。

◆備品等の維持管理

備品については、備品台帳の更新に努め、適正に管理する。

◆芝生等の維持管理

ホール周辺の芝生や樹木等については、景観にも大きく影響することから、6年度においてもシルバー人材センターに委託し適正に管理した。

◆保安警備業務

職員が不在となる夜間（午後10時～翌朝8時30分）は、専門業者による機械警備を行なうとともに、不測の事態に対応できるように職員連絡体制を取ってきた。

◆清掃業務

施設利用の快適さと美観の保全のため専門業者による清掃を行ってきた。特に、ボランティアの方により、館内各所に季節に応じた生花が生けられており、来館者から高評価をいただいている。

③ 防災意識の醸成・危機管理対応の取り組み

東南海・南海地震の発生が想定されており、危機管理対応マニュアル・消防計画をもとに、職員を対象とした防災・火災訓練等に加え、ボランティアスタッフ等にも参加してもらうことで、より実態に即した訓練を実施する。

地震以外にも、ホールの管理運営には多くのトラブルが起きることが想定される。そもそもホールは、地域に開放された大規模集客施設であり、不特定多数が利用する。建物自体も特別な構造で、舞台機構や舞台用設備、備品等を多く抱える「危険な空間」である。事務局職員をはじめ、舞台技術や清掃等の様々な業者が管理運営にかかわっており、総合的・一体的に管理するための情報共有は極めて重要である。これまで起きたトラブル例や他館での実例をもとに、危機管理・リスクマネジメントに関する職員研修を行う。

6年度においては、2月10日に施設での地震災害時の心得及び人命救助の際のAEDの実践を竹田消防署署員2名の指導の下に、職員9名が参加し、実施した。

また、8月20日に大分市のホルトホールで実施した地震を想定した避難訓練コンサートに職員2名が参加をし、避難対応について学んだ。

④ ユニバーサルデザイン・安全衛生・特別対応の推進

障がい者や高齢者、幼児、妊婦、外国人など、誰もが気軽に、かつ快適に施設利用できるための環境整備と運営に努めた。とくにコンサート等の事業実施前には、ボランティアスタッフを含めたミーティングのなかで、特別対応しなければならない事項等を全員で共有し、トラブルの未然防止に努める。

あわせて、日頃から人権に配慮した意識啓発に関する職員研修を行う。

6年度においては、9月11日、11月18日に大分市のiichiko総合文化センターのホールで行われた「バリアフリー研修」に企画制作班3名が参加し、座学で知的・発達障害への理解を深めるとともに、車椅子の操作体験や障がいを持った方の劇場案内など実際に即した内容の研修を受けた。

また、3月7日に当館において、人権研修を行い、職員7名が参加した。

イ 芸術文化に関する情報収集及び提供に関する業務

① 計画的な広報事業の展開

年間広報計画を策定し、チラシやポスター、広報誌、イベントカレンダー、ホームページ、Facebook、メールマガジンなどの自主媒体広報のほか、竹田市報、ケーブルテレビ、マスコミ等への積極的な情報提供によりメディアを活用した広報活動、動画などを積極的に取り入れた情報発信に努めた。アーティストや作品の見どころや素晴らしさを、わかりやすく説明し、チラシに記載するだけでなく、魅力を伝える告知を行ってきた。事前のお知らせ広報のほか、事業終了後に速やかに報告することで、ホールに来ることができなかった市民への周知を図った。

6年度は引き続き竹田市ケーブルテレビに番組企画提供を行うとともに、OBS 大分放送ラジオ番組に対してスポンサー契約を行い、定期的にイベント情報告知に加え職員が積極的に番組出演し、事業参加への誘因を行った。

② 総合的な情報発信

これまでコンサート等に参加した方からいただいたアンケートには継続的な情報提供を受けたい旨の要望がある。まさに《グランツたけた》のコアなファンであり、告知があるたびにきちんと届けることが重要。また、グランツが質の高い事業を行っていることを「人から人へ」伝えていく口コミ情報は重要なアイテムである。特に、文化事業関係各所への企画説明と協力依頼を丁寧に行ってきた。事業ごとにターゲットを設定し、そこに向けた手法で、効果的に情報提供を行ってきた。

集客状況の把握・分析を適時行い、回覧や毎週の朝礼等で報告をし、組織全体でどこに重点を置いて対処するか情報共有して対応していきたい。「グランツの良さを人にも伝えたい」と思っていただけのような仕かけづくりも大切である。そのためにも公演に来場していただいた方、チケットを購入していただいた方に感謝を示し、気持ちよく鑑賞していただくとともに、さらにまた来たいと思っただけのように努力をしてきた。

他館連携や竹田市との協力のもとに、広域他都市圏域や県境を越えた情報発信にも努めてきた。

(3) 芸術文化に関する自主事業

ア 芸術文化の拠点づくり事業

① ネットワークづくり

事業の実施にあたっては、竹田市文化連盟、竹田市内の商店街や商工会議所、商工会、まちづくりたけた株式会社などの各種団体、小中学・高校などの教育機関、医療・福祉機関など、多くの関係機関と連携することで情報発信の効果が出てくる。また他機関連携・他産業連携の効果は、相互に効果を生み出すことにより、地域産業の発展に貢献することにつながる。

6年度も例年同様個別に文化連盟加盟団体と協働し、集客活動の働きかけを行って

きた。しかし、組織的に連携し商業振興にまでつながる取組にまでは至らなかった。

コンサート時にはマルシェの開催も利用者に好評である。テーマに合わせて出店者を募り魅力的な料理や商品を提供いただく。業者にとっても利用者にとっても喜ぶ企画であり、グランツの賑わいづくり、人との交流につながる。6年度は神楽研修舞の事業や一部の共催事業においてマルシェの実施があったが、コロナ以前のような積極的な開催までには展開が至らなかった。

② 公立文化施設とのネットワークづくり

公益社団法人全国公立文化施設協会や大分県公立文化施設協議会に加入し、劇場・音楽堂等が抱えている課題解決の方策を研究するとともに、国が今後導入しようとする研究課題・研究成果を共有できる。とくに《グランツたけた》のような人口規模が小さく、なおかつ高齢化率の非常に高いまちのホールの在り方を検討するためには絶好の材料である。また他市・他館連携により、自主事業を共同開催することで事業費圧縮になるし、文化庁等の補助金獲得にもつながる。

6年度は隔月開催される九州地区オンラインミーティングに職員が積極的に参加し、各地域で抱える課題やその対処法を学んできた。

③ 地域・学校との連携による教育普及活動

竹田市教育委員会と連携し、市内各地に積極的に出向いて出張授業（アウトリーチ）等を展開する。小学生、中学生、高校生はそれぞれの年代によって感受性や情操等は異なる。生の演奏に触れる意味は大きく、それぞれの対象に合わせたコンサート等を提供する。6年度は、竹田市内すべての小学校においてクラシック音楽のアウトリーチ公演を行い、好評であった。また、小学生招待券を作成して地域コンサートやリサイタルへの誘因を図った。

竹田市内の荻・久住・直入地域は中心部から離れており、《グランツたけた》に来る交通手段も限られている。これまでも各地域の公民館等での出前コンサートを手掛けてきたが、6年度は市内3か所の公民館と城下町交流プラザ、さらには豊後大野市の3公民館まで協力して各1回の地域コンサートを実施し、好評であった。

④ RENTARO 室内オーケストラ九州との連携

大分県初のプロオーケストラ「TAKETA 室内オーケストラ九州（現在はRENTARO 室内オーケストラ九州）」が令和3年7月12日、竹田市に誕生。元グランツたけたスタッフの森田良平氏（地域おこし協力隊）が代表を務める九州シティフィルハーモニー協会が設立した。設立日には竹田市地域交流プラザで竹田市、竹田市文化振興財団、九州シティフィルハーモニー協会の三者で連携協定を締結した。《グランツたけた》では年間3回のコンサートを共催として開催し、リハーサル会場として提供するとともに、古澤巖（ヴァイオリン）中西圭三&古澤剛などのゲストを迎え多彩な公演を行った。令和6年度は古澤巖を招いての定期演奏会に加え、落語とクラシックの融合にも挑戦し、普段クラシックには縁遠い新たな客層の開拓に努めた。

⑤ 一般財団法人 TAO 文化振興財団との連携

竹田市久住町に拠点を構える「DRUM TAO」は世界観客動員数 800 万人を超える和太鼓パフォーマンス集団であり、野外劇場「TAO の丘」も活用している。《グランツたけた》では開館以来、「DRUM TAO」の正月新春公演が恒例化してきた。また 5 月には、《グランツたけた》を全館利用し新作公演のための制作リハーサルを重ね、その成果を新作舞台プレビュー公演として発表している。

TAO 文化振興財団との連携は 6 年度も継続して行い、新作公演のための 9 日間（使用料免除）当館を貸し切りで制作作業に打ち込む、5 月 4 日にプレビュー公演を上演した。また 1 月 5 日「ふるさと新春特別公演」は地元「くたみ太鼓」の協力で実施し、多くの市民が詰めかけた。

イ 自主事業

① 鑑賞事業（鑑賞機会の提供、交流の促進）

文化芸術作品を観たり聴いたりする人、文化芸術に親しみ楽しむ人を増やしていくことを目指し、音楽を中心に、ミュージカル、舞踊、演劇、落語、古典芸能など幅広い分野の文化芸術作品を鑑賞する機会を広く提供する。

6 年度は、「グランツ音楽館」事業として、田中拓也（サクソフォン）、中野翔太（ピアノ）、新居由佳梨（ピアノ）、並びに金子三勇士（ピアノ）に依頼し、グランツでのコンサートとともに、小学校や公民館等でのアウトリーチ活動を行った。

また、黄啓傑（トランペット/ジャズ）、高橋多佳子（ピアノ）に依頼し、ワークショップ及びコンサートを行った。

多彩な作品鑑賞の機会を提供できるよう、市民への鑑賞機会を提供する活動団体やプロモーター、マスコミ等と連携し共催公演を行う。

若者たちへの音楽文化の普及啓発のために、公演内容によっては小中高校生無料招待、U25（25 歳未満）無料招待を検討する。

6 年度は「グランツ音楽館」事業での地域コンサートにおいて、5 年度に引き続き高校生以下無料として、子どもたちの音楽鑑賞機会を増やすように企画した。

◆ 優れた文化芸術の鑑賞機会を提供する

音楽（クラシック、ポップス等）、演劇やミュージカル、ダンス、古典芸能など、良質な作品を鑑賞する機会を提供する。鑑賞をより深めるため、公演に合わせて、作品解説やリハーサルの公開などを行う。

6 年度はクラシック音楽以外にも、伝統芸能として地域でも人気の高い神楽公演「耕す里の神楽研修舞」を 1 1 月 2 4 日に地元神楽座と協働して実施した。

また、1 1 月 1 6 日大分二期会「ヘンゼルとグレーテル」、2 月 1 3 日黒木瞳主演リーディングエンターテイメント「ルビンの壺が割れた」、2 月 1 6 日「iichiko グランシアタジュニアオーケストラ グランツたけたコンサート」を共催公演として実施した。

◆ 文化芸術を通してにぎわいや交流を生み出す

ロビーコンサートの実施や各種展示、マルシェの実施など、多くの人々が気軽に《グランツたけた》を訪れ、楽しめるようなイベントやコンサートを行い、公演を開催していない時にもにぎわいを創出する仕掛けをつくっていく。

6年度は事業に関連したマルシェ開催や、映画上映に合わせ作品のテーマとなった商品の即売会などを行い、多くの市民が利用した。

② 創造事業(市民活動支援/参加体験事業/市民参加による作品創造/文化資源活用)
市民誰もが、文化芸術を身近に体験できる体験型事業や、気軽に参加できる参加型事業を展開する。

実際に舞台の上で演奏したり演じたりする市民の参加型事業のみならず、《グランツたけた》の運営やスタッフワークなどを体験できる機会などを設け、より多くの市民が《グランツたけた》に関心や理解をもち、活動を支援してもらえるようにする。子どもから高齢者まで年齢や属性などに関わらず、市民誰もが主体的に関わることができるようにする。体験・参加経験の蓄積により、将来的には、市民とともに独自の作品を創造することも視野に入れて、事業を展開していく。また、竹田市の歴史、育まれた文化等を活かした事業を継続・発展させる。

◆ 市民が文化芸術を体験できる機会を提供する

文化芸術を身近に感じ、より親しみを持つ機会を増やすために、市民体験型のワークショップや舞台芸術講座などを行う。(例：グランツ・ワークショップなど)

6年度は8回のワークショップを実施した。音楽以外に美術や演劇、ダンスなど多様な市民体験型のワークショップで、子どもの参加も多く、好評であった。

◆ 市民とともに作品を創造する

市民自らが作品を創造するプロセスに参加し、舞台に立つ側や舞台を支える側を体験する機会をつくることで、文化芸術の魅力を直接感じてもらう事業を計画する。

6年度は、竹田市ゆかりの童謡・童話作家 佐藤義美を取り上げ、佐藤義美の詩による新作楽曲を制作し、市民の歌唱とともに発表する。過去のグランツたけたの事業で制作してきた、「ともだちシンフォニー」「うんどうするりんご」、や、竹田市内で制作された楽曲と合わせて、披露する場を作ることも検討していく。

6年度は、佐藤義美生誕120年記念事業として、竹田よしみ会とともに「みんなのたけた童謡祭～隠れた名作を歌い上げる～」を開催した。大分市出身の森田花央里氏に新作合唱曲を委嘱し、竹田にゆかりある市内外の参加者で構成されたグランツ合唱塾のメンバーが、合唱指揮者の菊村隆史氏(元グランツたけたスタッフ)指導のもと全11回の練習を行い、その成果を世界初演という形で披露した。合唱曲披露のほか、第一部は関係者によるトークショー、第二部は大分二期会によるよしみ童謡ミニコンサートを実施し、ともに大成功を収めることができた。

◆ 竹田市の文化を活かした活動を行う

竹田市ゆかりの芸術家や地域の文化遺産を活かし、市の文化に対して理解を深める機会とする。「瀧廉太郎顕彰コンサート」では、廉太郎が所有していた楽譜から、廉太郎が好んでいたであろう楽曲を紹介し、演奏するほか、廉太郎の生きた時代や、

人となりを見られる事業を開催する。

このほか、瀧廉太郎先生を偲ぶ音楽祭、瀧廉太郎記念全国高等学校声楽コンクール、竹田市の文化を発信する市民活動との連携を深める。

6年度は、瀧廉太郎の生誕日に近い8月17日に、瀧廉太郎記念全国高等学校声楽コンクール歴代受賞者グループ「コンツァート KOJO」の全面協力による顕彰コンサートを開催。廉太郎楽曲へのアプローチとともに竹田が育んだ声楽家の活躍と彼らの竹田愛を観客に届けることで、市民の音楽と地域の愛着を醸成することができた。

③ 施設提供事業（市民活動への支援）

文化活動を行う個人や団体を支援し、活動をより充実したものにするとともに、新たに文化活動を行う市民を増やすことで、地域の文化芸術活動の活性化を図る。市民自らが《グランツたけた》を活用した企画提案に対してサポートする。

施設提供を通して、市民の文化活動、生涯学習活動の場を提供する。また、竹田市の文化芸術の拠点施設として、市内各地域の既存施設はもちろん、近隣の文化施設等、様々な機関と連携し、多様な交流を促進していく。

◆ 市民の文化活動を支援する

市民企画応援プロジェクトの実施など、文化活動を行う個人や団体を支援する。

6年度は、9月22日「たけたウインドアンサンブル」、10月6日「MIKA&FRIENDS in 竹田」を市民企画応援プロジェクトとして実施し、施設提供やチケット販売等で支援した。

◆ 市内公民館等との連携を図る

文化芸術の拠点施設として、様々な文化芸術関係機関との連携を図る。観光や商業、医療・福祉等のさまざまな団体と接点を持ち、事業を通して交流を促進する。

各地域の公民館等で行われている文化活動や生涯学習活動のネットワーク・ハブとなることはもちろん、地域の資源や人材を発掘し、地域の活性化を促すしかけをつくるコーディネートを行うことで、文化芸術の地域づくりを推進する。

6年度は久住・直入地域で行われた「グランツ音楽館」地域コンサートにおいて、各公民館が主体となって運営している市民教養大学の一環として開催することができ、多くの高齢者が公民館に集いクラシックの音色に耳を傾けた。

④ 育成事業（普及・育成事業の実施、広報活動の実施、情報の収集と発信）

育成事業では、文化芸術に親しみ楽しむ人や、文化芸術活動を行う人材の裾野を広げていく。特に、次世代を担う子ども世代が文化芸術に親しむための事業を展開する。

アウトリーチ事業など、《グランツたけた》以外の場所において実施する事業も積極的に展開し、文化芸術活動に接点のなかった人、関心の薄かった人などにも文化芸術に触れる機会を届け、文化芸術の活動者・理解者・支援者などを増やしていく。

また、《グランツたけた》の利用者や支援者、鑑賞者の拡大を図るために、市民に施設や事業について周知する広報活動を積極的に展開する。

あわせて、市内や近隣の公演情報をはじめ、文化芸術に関する活動、人材、施設、設備、助成制度など、関連する様々な情報の収集を行ない、広く市民に提供する。

◆ 文化芸術への関心を広げる

文化芸術に触れる機会をより多くの人に持ってもらうため、アーティストが学校や福祉施設などに出向いて、子どもから高齢者まで幅広い世代に音楽や演劇などの文化芸術に触れる機会を提供するアウトリーチ活動やワークショップなどを計画する。特に、《グランツたけた》にアクセスしにくい地域へ積極的に出向き、施設を訪れるためのきっかけづくりを実施する。

6年度は市内全小学校と竹田高等学校器楽部においてアウトリーチ公演を行うと共に、市内4か所、および6年度から近隣の豊後大野市3か所の公民館等で地域コンサートを開催。市内および近隣市全域で幅広い年代層に音楽を親しむ機会を提供した。その結果、グランツ音楽館リサイクルにおいては、関連事業からの来場者割合が昨年度から約8%増加した。

◆ 文化芸術を通して人を育てる

竹田市の将来を担う子どもたちが文化芸術に親しむことで、地域への愛着や文化芸術への興味が育まれる。土壌育成のため、子どもを中心とした事業を展開する。

6年度は多様なジャンルの「GWS（グランツ・ワークショップ）」（全8回）を実施した。公演アーティストによる体験を交えたワークショップでは、子どものみならず保護者にも親しみやすい内容で、本番公演への興味にもつながっていった。また、竹田市中中学生吹奏楽クラブのメンバーと共に即興で音を紡ぐワークショップも展開し、市内の児童・生徒に新たな音楽体験を提供できた。

◆ 施設や事業を周知し、経験を蓄積する

公演の周知や活動の参加者を増やすことを目的に《グランツたけた》の活動について広報する。また、施設の事業や活動のアーカイブ化を行い、様々な文化芸術の情報にアクセスできるようなしくみを検討する。

◆ 情報を収集・発信し、文化芸術を通してまちづくりの拠点施設となる

市内外の文化芸術活動に関する情報を広く収集・発信する。市のまちづくりや観光、商店街、市民活動団体などに関する情報についても、あわせて集約していくことで、市の活性化につながるような中核拠点の役割を果たしていく。

ウ 友の会事業

竹田市全体の芸術文化の振興や自主事業の円滑化を図るため、「グランツたけた友の会（愛称 グラとも）」を立ち上げた。6年度以降も継続して、会員への公演情報提供などを行い、グランツのコアなファンの獲得やホールとファンとの絆をより強くしていく。

6年度は、令和5年4月から「グランツたけた友の会（愛称：グラとも）」の募集を始め、令和6年3月末現在で153人（竹田市内：36／大分市：50／以外の県内：45／県外：15／不明：7（アドレス対応））の登録がある。登録者にはメールで毎月情報発信し、郵送では年4回の広報誌発行にあわせチラシ等を発送してきた。

(4) 《グランツたけた》を担う専門的人材の育成

《グランツたけた》を担う職員の専門的人材の育成を図る。「管理運営を担う人材」「公

演などの企画制作を担う人材」「舞台設備・舞台技術を担う人材」のほか、マーケティング、ファンドレイジング等にも能力を発揮できる人材の育成を図っていく。

6年度は、6月開催の全国公立文化施設協会九州支部「業務マネジメントセミナー」、7月開催の地域創造主催「地域創造フェスティバル2024」、3月開催の地域創造主催「ステージラボ堺セッション」などに、職員を派遣し研修を受講した。

加えて自主事業であるアーツスタッフ育成講座においてフロントスタッフ研修とアートマネジメント講座、ファシリテーター養成講座を開催し、新規職員も含めたグランツたけたスタッフが受講し研鑽を積んだ。

(5) 基盤強化事業の展開

公益財団法人のメリットの一つに、寄附金が受け入れやすくなる点が挙げられる。制度構築のため改めて寄附金取扱規程を制定し、寄附者への特典に充てるほか、自主事業への魅力アップに資するものとする。

6年度は、募集に努めたところ、15件、44万円の寄附金を集めることができた。寄附者には礼状とコンサート招待状を送り、年度末には使途状況、活動状況を記した報告書を持参し説明を行った。

2 評議員会・理事会の開催

- 令和6年5月20日、第1回定例理事会を竹田市総合文化ホール《グランツたけた》において開催（理事出席10名）した。

議題

- (1) 令和5年度事業報告と決算報告について
- (2) 定時評議員会について
- (3) 公益財団法人竹田市文化振興財団職員給与規程の一部改正について

(1) (2) (3) について説明し、承認いただいた。

報告事項

- (1) 業務に関する報告について
- (2) 今後の主な自主事業の状況について
- (3) 寄附について
- (4) 財団職員の応募状況について

●令和6年6月18日、第1回定時評議員会・第2回定例理事会を竹田市総合文化ホール《グランツたけた》において開催（理事9名・評議員出席3名）した。

【評議員会】

議題

- (1) 令和5年度事業報告並びに決算報告について
- (2) 評議員の選任について
- (3) 理事・監事の選任について

について説明し、承認いただいた。

報告事項

- (1) 業務に関する報告について
- (2) 議事録作成方法について

【定例理事会】

議題

- (1) 理事長及び副理事長の選定について
- (2) 令和6年度補正予算について

報告事項

- (1) 業務に関する報告等
- (2) 議事録作成方法について

●令和6年9月24日、第3回定例理事会を竹田市総合文化ホール《グランツたけた》において開催（理事出席10名）した。

- (1) 令和7年度自主事業ラインナップ（案）について
- (3) 玉来川河川敷使用者の公募について

について説明し、承認いただいた。

報告事項

- (1) 業務に関する報告について
- (2) 今後の主な自主事業について
- (3) 寄附金について
- (4) 財団職員について

●令和7年3月18日、第4回理事会を竹田市総合文化ホール《グランツたけた》において開催（理事出席9名）した。

（1）令和7年度事業計画案及び当初予算案について

（2）公益財団法人竹田市文化振興財団職員給与の一部改正について

について説明し、承認いただいた。

・業務報告等

（1）事業に関する報告

（2）令和7年度財団事務局職員について

（3）玉来川河川敷「たまりバたけた」の利用について

今後のグランツたけた運営等に関して、理事から多くの意見あり、今後の事業展開に生かしていくことを確認した。